

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470700756	事業の開始年月日	平成17年2月1日	
		指定年月日	平成17年2月1日	
法人名	社会福祉法人 育生会			
事業所名	グループホーム かぐやひめ			
所在地	(〒235-0043) 神奈川県横浜市磯子区氷取沢町451-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲には、沢山の自然が残っています。建物の後ろには竹林が迫り、リビングからガラス越しに、一面竹林を眺めることができます。利用者さんがその人らしい生活ができるように、その時を大事にしながら、援助しています。ボランティアさんの来所が多くあり、体操、音楽療法、アートセラピー、お茶会、三味線の会等、楽しんで頂いています。他は、季節毎の行事として、お花見や、近くにある牧場へコスモス鑑賞に出かけたりしています。食事職員が買い物から全て行い、3食共作っています。野菜中心のメニューを各々工夫して、召し上がっていただいています。全体的に、家庭の雰囲気の中で、利用者さんから、こうしたいと気兼ねなく話して頂いたり、楽しく会話が出るホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価機関 評価決定日	平成22年5月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は京浜急行線能見台駅よりバスで十数分、バス停のある大通りより徒歩で7～8分ほど奥に入った閑静な住宅街にある。木造2階建ての建物は北東の両側を小高い竹林に囲まれるように建っている。事業所の建物より少し下がった地形の西側に農家の庭が広がり、居間のガラス戸越しに梅などの庭木が見下ろせる。 【身体拘束等行動制限に関する取り扱い】 法人では「身体拘束等行動制限についての取扱要領」を定め、緊急やむを得ない場合以外は身体拘束を行わないことを原則としているが、やむを得ず身体拘束を行なわざるを得ない場合はその手順・家族への説明など職員への周知を図っている。月1回事故防止委員会を開き、日常的ケアの見直しを行い、利用者の人権が尊重されているかを確認している。 【看護師による健康管理】 法人の特別養護老人ホームの看護師と24時間の連携体制が確保されており、看護師は週1回、巡回訪問して利用者の健康状態をチェックし事業所に報告している。 【自衛消防隊の設置】 法人では消防計画を定め、事業所ごとの自衛消防隊の設置、防災マニュアルの制定、防災教育訓練など防災に対する体制整備を図っている。防災訓練は年2回実施することになっているが、新任職員は採用時にも防災訓練を行うことになっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	かぐやひめ1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を1・2階の事務所に掲示して絶えず確認できるようにしている。月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの際に、日々の介護について理念に合致しているか話合っている。	「家庭に近い環境づくり」「利用者の自立生活の維持」「地域に融合したホーム」を柱とした「基本理念」をユニットの玄関に掲示し、ミーティングなどで趣旨を話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も回ってくる。地域の行事については隣地に住む大家さんから情報を入手して、参加している。	町内会に加入し、同会行事のどんど焼き、防災訓練に参加している。体操、茶道、アートセラピー、大衆演芸などのボランティアや小学生の社会見学での訪問などがあり地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、散歩時挨拶を交わしたりしてお付き合いをしている。スタッフと利用者で接することで、ホームの雰囲気を感じて頂いていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催して、活動状況報告を行っている。地域の方より、協力的な意見を頂いて、有意義な会議になっている。	運営推進会議は年2回開催し、事業所の活動状況、自己評価などを報告して、話し合っている。メンバーである町内会長から「事業所の防災訓練に地域の協力を求めているどうか」との提案が出された。	地域との一層の繋がりを深めるため当会議の積極的な活用を図ることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当者から、入所の問い合わせがよくある他、利用者の処遇について相談にのって貰っている。生活保護担当の方について、区の担当者が様子を見る為に、視察に来る。	生活保護受給者があり、区の職員が訪問した際に相談するなど連絡を密にしている。ケアプラザの紹介により、入居の問い合わせや見学に訪れる家族が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者の人格を尊重する声かけを心がけている。行動制限や施錠をしない対応を実践している。	法人の「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」に基づき身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、チャイムと見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の手引き書を全スタッフが読んで、日々のケアに役立てるようにスタッフ会議で話合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習に参加する機会を増やして、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族と同席して重要事項説明書、利用契約書について説明して理解して頂いている。退所時には、入居者が求めている事柄や要望に添って納得のいく退所先を援助している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した折にホームに対する意見を出して頂き、話し合っている。	利用者、家族の意見は来所時や家族会、運営推進会議及び「連絡ノート」で聞いている。「ドライブでの外出機会を増やしてほしい」との家族の要望があったので、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員からの意見を聞き、即答できない内容は法人の運営会議で報告して、結果をスタッフ会議で伝えている。	職員の意見は毎月1回開催されるユニットごとの職員全体会議での話し合いや職員連絡ノートで聞いている。ボランティアの大衆演芸を招請したいとの職員の意見を採用し実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の法人の運営会議で毎月のホームの状況を報告している。その会議で、改善点を話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホームとは、お互いに情報交換をしているが、内部研修への参加は出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区のグループホーム連絡会に加入して、意見交換をしている。市の現場研修事業にあたり、他のグループホームの実習受け入れを行い、情報交換を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、ご家族に本人の生活パターンを聞いている。ご家族からの要望を伺い、本人からの希望を自然な雰囲気伝えて貰えるように声かけしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたって、家族からの要望を電話で聞いたり、来所時に話し合っ、頻回に連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の要望を聞き、本人の気持ちを尊重しながら、ホームの生活に慣れて頂けるよう、サービス内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格を大切にしながら、本人の生活を援助させて頂くという心掛けでケアしている。お互いに生活を楽しむという気持ちで過ごすようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をご家族に説明し、本人の気持ちを優先しながら、ご家族の要望を聞いて、話し合う機会を多く持つようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、出かける利用者への援助はないが、ホーム内でのクラブ活動を楽しんで頂いている。	入居当初は友人が訪れ食事をしたり、親族の結婚式や喫茶店に出かけるなどの機会が多くあったが、最近では歩行困難などの体調によりそうした機会が少なくなってきた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に生活して頂いている中で、仲の良い方同士で、居室やリビングで談笑されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族より近況報告を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとっており、希望を居室担当者が聞いたり、日常的に会話している中で、早めに願いを叶えるようにしている。	利用者の思いや意向はアセスメントや家族からの聞き取り、利用者への声かけ、表情などから把握している。居室担当はスタッフ会議で利用者の状況を報告し、職員間の情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報をスタッフ間で共有して、入所後も希望を聞き、サポートしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を各利用者によって、本人の希望や状態を把握し、スタッフ会議や日々の業務の中で話し合い、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で、全利用者の問題点を話合って、家族の要望を取り入れてプランに結び付けている。家族には連絡ノートを作り、読んで頂いている。	介護計画は利用者、家族及び医師等の意見を参考にスタッフ会議で話し合い作成している。6ヶ月ごとに見直しているが、状況変化があった時は随時見直し、家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に毎日実行したプラン内容を記入しながら、ケアの質の見直しを行っている。本人の状態の変化に添った対応を行う様に、留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて対応している。通院時の付き添いをその方に合わせて、ヘルパーを依頼したりスタッフが援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所も随時にあり、体操、音楽療法、お茶会、アートセラピー、踊りの会等、来所されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院の医師が月2回往診の為に来所している。近所の医院への通院をスタッフが援助している。	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者は4人で他の方は協力医療機関を利用している。協力医の往診は2週に1回で、歯科医には通院受診している。法人の看護師が週1回来訪して健康管理に当たっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回法人の看護師が来所してバイタルチェック等健康管理して頂き、連絡して相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の様子をご家族に聞きながら、病院の医師と面談を行い、ご家族の意向と合わせて、入院後の方針を決めている。提携病院の医師に相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明して書類を渡している。今後の本人の状態の変化によってご家族に特養ホームの申し込みを依頼している。地域関係者にも相談している。	入居時に「重度化した場合における対応に係わる方針」を利用者、家族に説明し、同意書を取り交わしている。医療上の処置が必要となるなど重度化した場合は家族、医師、看護師、職員で話し合い対応方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の書面を読んで勉強している。訓練や講習は行っていない。今後は、講習を受けて習得していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練をホーム内で実施している。今後は地域の方にも協力していただくように、依頼している。	自衛消防隊を設置している。防災訓練は利用者、職員が参加し年2回行っている。住民の参加はないが、運営推進会議を通じて協力を依頼したいと考えている。非常用食糧、飲料水の備蓄はある。	消防署立ち会いの下での訓練はまだ行われていないので、訓練に際して直接、消防署の指導助言を仰いで訓練の質の向上を図ること及び地域住民の参加を期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、年長者への尊敬の気持ちを持ちながら、声かけに注意している。	個人情報を含む資料は施錠できる事務所のロッカーに保管し、個人情報保護やプライバシーについてミーティングで話し合っている。職員は言葉遣いに注意し、利用者に対して尊敬の気持ちをもって話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、利用者からスタッフに話しかけ易い雰囲気作りに気をつけたり、マンツーマンで話合ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大事にして、その方に合った生活のペースを維持して貰えるようにケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や様子観察を行い、スタッフが整容面の援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、フライの衣をつけたり、食器の後片付けを手伝っていただいている。	献立は利用者の好みや季節の食材を取り入れ職員が日々作っているが、出前を取ったり、外食に出かける時もある。利用者は職員と共に野菜のカットや配膳、下膳をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが3食共、献立を決めて調理している。野菜を多くとれるような献立にしている。水分摂取量の把握をしながら、食事やおやつ以外に水分を勧めて摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの援助している。口腔セットを事務所預かりにして、口腔ケアの援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時にトイレの声かけや、トイレ誘導して、汚さないように、出きる限り援助している。	排泄記録表などに基づき利用者の排泄パターンを把握し、声かけによりトイレでの排泄に向けた支援を行っている。夜間はポータブルトイレを使用している人が1人いるが、日中は一般のトイレを使用している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックして、水分や食事量を確保している。水分が少ない方へは、牛乳をすすめたり、食事以外にジュース等飲んで頂いている。食事前に皆で歩行練習を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	大体の入浴日は職員が決めているが、当日の予定によって、随時変更している。時間帯はその都度、本人の希望に添っている。	入浴は個室で隔日の午前中に3~4人ずつ行っている。本人の希望によりそれ以外の時間帯にも入浴は可能である。入浴をしたがらない人には声かけなどして誘導している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、通院後等、居室やソファで休んで頂いたり、リラックスした時間を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更後は、様子観察を行い、ケースファイルへ記入して、職員間で情報を共有している。服薬リストを作成して、その都度、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の外出やバーベキュー、行事、ボランティアさんによる体操、音楽療法、散歩、ゲーム等出来る限り刺激のある生活を目指しながら、援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ、本人の好きな物を一緒に買い物へ外出したり、外食の機会を作っている。	日常的な散歩や事業所周辺の商店およびスーパーマーケットでの買い物のほか、行楽地にドライブに出かけるなどの外出支援をしている。体調により外出できない人は庭のベンチで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かって、本人の好きな食品を一緒に買ったり、依頼された物を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や、贈り物が届いた時に、ご家族と電話で話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や、季節の飾りつけ、貼り絵を利用者と一緒に作り、飾っている。	居間には内裏雛や動物のぬいぐるみ人形が飾られ、壁には行事の時のスナップ写真、利用者のアートセラピー作品集が掲示され生活感と季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子や、ソファに座って、テレビを見たり、利用者さん同士で談笑されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、自宅での家具を運んで頂き、使い慣れた品物がある事によって安心して生活して頂けると思う。	エアコンとカーテン以外は全て利用者の持込みとなっている。居室には家族の写真、人形などが飾られ、使い慣れたテレビ、鏡台、整理たんすが持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんに、理解力の違いがある為、その方に合った声かけや対応に工夫している。		

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	かぐやひめ2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を1・2階の事務所に掲示して絶えず確認できるようにしている。月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの際に、日々の介護について理念に合致しているか話合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も回ってくる。地域の行事については隣地に住む大家さんから情報を入手して、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、散歩時挨拶を交わしたりしてお付き合いをしている。スタッフと利用者で接することで、ホームの雰囲気を感じて頂いていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催して、活動状況報告を行っている。地域の方より、協力的な意見を頂いて、有意義な会議になっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者から、入所の問い合わせがよくある他、利用者の処遇について相談にのって貰っている。生活保護担当の方について、区の担当者が様子を見る為に、視察に来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者の人格を尊重する声かけに心がけている。行動制限や施錠をしない対応を実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の手引き書を全スタッフが読んで、日々のケアに役立てるようにスタッフ会議で話合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習に参加する機会を増やして、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族と同席して重要事項説明書、利用契約書について説明して理解して頂いている。退所時には、入居者が求めている事柄や要望に添って納得にいく退所先を援助している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した折にホームに対する意見を出して頂き、話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員からの意見を聞き、即答できない内容は法人の運営会議で報告して、結果をスタッフ会議で伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の法人の運営会議で毎月のホームの状況を報告している。その会議で、改善点を話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホームとは、お互いに情報交換をしているが、内部研修への参加は出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区のグループホーム連絡会に加入して、意見交換をしている。市の現場研修事業にあたり、他のグループホームの実習受け入れを行い、情報交換を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、ご家族に本人の生活パターンを聞いている。ご家族からの要望を伺い、本人からの希望を自然な雰囲気伝えて貰えるように声かけしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたって、家族からの要望を電話で聞いたり、来所時に話し合っ、頻回に連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の要望を聞き、本人の気持ちを尊重しながら、ホームの生活に慣れて頂けるよう、サービス内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格を大切にしながら、本人の生活を援助させて頂くという心掛けでケアしている。お互いに生活を楽しむという気持ちで過ごすようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をご家族に説明し、本人の気持ちを優先しながら、ご家族の要望を聞いて、話し合う機会を多く持つようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、出かける利用者への援助はないが、ホーム内でのクラブ活動を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に生活して頂いている中で、仲の良い方同士で、居室やりビングで談笑されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族より近況報告を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとっており、希望を居室担当者が聞いたり、日常的に会話している中で、早めに願いを叶えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報をスタッフ間で共有して、入所後も希望を聞き、サポートしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を各利用者に決めて、本人の希望や状態を把握し、スタッフ会議や日々の業務の中で話し合い、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で、全利用者の問題点を話合って、家族の要望を取り入れてプランに結び付けている。家族には連絡ノートを作り、読んで頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に毎日実行したプラン内容を記入しながら、ケアの質の見直しを行っている。本人の状態の変化に添った対応を行う様に、留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて対応している。通院時の付き添いをその方に合わせて、ヘルパーを依頼したりスタッフが援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所も随時であり、体操、音楽療法、お茶会、アートセラピー、踊りの会等、来所されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院の医師が月2回往診の為来所している。近所の医院への通院をスタッフが援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回法人のp看護師が来所してバイタルチェック等健康管理して頂き、連絡して相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の様子をご家族に聞きながら、病院の医師と面談を行い、ご家族の意向と合わせて、入院後の方針を決めている。提携病院の医師に相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明して書類を渡している。今後の本人の状態の変化によってご家族に特養ホームの申し込みを依頼している。地域関係者にも相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の書面を読んで勉強している。訓練は講習は行っていない。今後は、講習を受けて習得していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練をホーム内で実施している。今後は地域の方にも協力していただくように、依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、年長者への尊敬の気持ちを持ちながら、声かけに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、利用者からスタッフに話しかけ易い雰囲気作りに気をつけたり、マンツーマンで話合ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大事にして、その方に合った生活のペースを維持して貰えるようにケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や様子観察を行い、スタッフが整容面の援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、フライの衣をつけたり、食器の後片付けを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが3食共、献立を決めて調理している。野菜を多くとれるような献立にしている。水分摂取量の把握をしながら、食事やおやつ以外に水分を勧めて摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの援助している。口腔セットを事務所預かりにして、口腔ケアの援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時にトイレの声かけや、トイレ誘導して、汚さないように、出きる限り援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックして、水分や食事量を確保している。水分が少ない方へは、牛乳をすすめたり、食事以外にジュース等飲んで頂いている。食事前に皆で歩行練習を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体の入浴日は職員が決めているが、当日の予定によって、随時変更している。時間帯はその都度、本人の希望に添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、通院後等、居室やソファで休んで頂いたり、リラックスした時間を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更後は、様子観察を行い、ケースファイルへ記入して、職員間で情報を共有している。服薬リストを作成して、その都度、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の外出やバーベキュー、行事、ボランティアさんによる体操、音楽療法、散歩、ゲーム等出来る限り刺激のある生活を目指しながら、援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ、本人の好きな物を一緒に買い物へ外出したり、外食の機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かって、本人の好きな食品を一緒に買ったり、依頼された物を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や、贈り物が届いた時に、ご家族を電話で話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や、季節の飾りつけ、貼り絵を利用者と一緒に作り、飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子や、ソファーに座って、テレビを見たり、利用者さん同士で談笑されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される時に、自宅での家具を運んで頂き、使い慣れた品物がある事によって安心して生活して頂けると思う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんに、理解力の違いがある為、その方に合った声かけや対応に工夫している。		